

…雨でも休まず／：第153回～155回…

## 「小原本陣の森、若柳嵐山の森」

◎定例活動： 5月 7日（第一土曜日） 小原本陣の森

\* 多数の山持ちさんとの協働 参加費 300円

\* 9時15分、相模湖駅前集合。車分乗で行く。

◎定例活動： 5月 15日（第三日曜日） 若柳嵐山の森

\* 新緑の最高に美しい季節。主食、皿、碗のみ持参。参加費 500円

◎定例活動： 5月 28日（第四土曜日） 甲州古道復活

\* 詳細はメールで案内する。 参加費 なし

\* 必ず申込：ボランティア保険加入と食材の準備に必要。

：T&F 03-3411-1636、メールもOK。

\* 初参加者：JR相模湖駅前：9時15分集合。

JR高尾発：8時42分、9時02分に乗られたし。

\* 用具 装：滑らない足下、汚れて良い格好、作業手袋は革製が安全。

\* 持 参：保険証写し、活動を楽しむゆとりと心構え。

## 改めてNPO活動を考える…1

- ・ボランティア、NPOは、金銭的、物質的には何の利益もないのに何故、存在するのでしょうか。参加者の中に呆れる程、活動に熱心な仲間たちがいます。
- ・彼らの行動の共通点は、森林=自然が大切だ、守らねばならないと言う使命感(ミッション)と自分こそ行動しなければならないという信念に支えられている事です。このような多数の想いが一つになって当会には「森林破壊という負の遺産を残してはならない」と言う理念ができ、その想いが一丸となって具現化に駆り立てています。
- ・この理念は、森林活動の最上位の目的である価値観です。“卓越して森を守る”と言う行動を具体的な形で示し、その達成程度に社会的な評価を受け、それが当会の存在理由となっています。根元的には、社会の公益に貢献すると言う使命感と自分の正義を自由に表現したいと言う強い欲求=信念に裏打ちされた行動なのです。

● 定例活動報告：4月2日（第一土曜日）小原本陣の森

「小原本陣の森」の初日。

駅から仲間が続々と降りて来る。参加が少なければ小原町の人々に面子が立たないとの杞憂は霧の如く消えさった。少し寒い花曇り。

活動拠点の「小原の郷」には、時間までに永井議員、・西川町内会長等町の人々も集まって来る。  
 36（森仲間）+12（小原町）+4（神奈川県）=52人の参加。

4年間、指導して下さった厚沢主査も参加。最後の最後まで誠実の人であった。感謝。

左から永井議員、西川町内会長・小碇世話人



齊藤森林部長、小林所長

県（小林所長）、町（永井議員）、緑のダム（西川町内会長）夫々の挨拶もそこそこに、大久保沢林道入り口で園田総隊長の先導で二礼二拍手一礼の森神様に捧げる神事も全員、見事な呼吸でピタリと決まった。そこで今日の活動結果。



明るい美女谷尾根を登る

この森を熟知している永井和美さんの案内で美女谷尾根の取り付きから急登。明るい稜線を経由して陣馬～明王峠～与瀬神社へのハイカーラー路を右に“孫山の頭”で昼食。

小原本陣根：急坂を下り沢入り口にいたる約3時間半のアルバイテン。守屋まり子さんや福岡からのワザワザ参加の森弘子さんも軽々と付いて来る。時間的余裕

だったので大久保沢林道終点まで約1.5kmの地形と森取り付きを相談しながら歩いた。

2時からの小原町と緑のダムの交流会は、小原公民館の桜の大木下にゴサを敷いて賑やかに催した。圧巻は、小林雄四郎さんの手もみ蕎麦の実演試食、絶品。試食というよりたらふく食った。こんな旨い蕎麦があったのかと何人もがお変わりをしていた。何人かの仲間がお土産にと無心していた。

森林地域の人々と都会からの森林ボランティアが共に、森を守ろうと親しく語らい合う。「ああ～、いい風景だな～」

胸襟を開いての交流会のお開きの後片付けは、当会の本領発揮。カカレッフの園田隊長の一聲に祝い酒に桃源郷をさ迷っていた仲間たちはタチマチにシャキッ。10分もしない内にチリ一つ落ちていない元の状態にしてしまっていた。お世話役の小碇（コイカリ）さんからお褒めを頂いて俺いらも満足・納得の帰路についた。

● 定例活動報告：4月17日（第三曜日）里山交流

この上ない好天の春日和、若葉、華やぐ森、常連になった55+望星高校16+JR貨物12+幸い町研4=87人。

- ・森林整備班：協力協約D地区には、残りの最後の仕上げに精銳12名が取り組んだ。



- ・崩落跡地に木の移植は“望星高校の森”と名付けて16人の高校生が取り組んだ。彼らがビジネスの一線にたつ頃、木の苗木たちも隆々と葉を茂らせている事だろう。
- ・ネイチャーフェスティバルに使う間伐材活用の組み立て式イベント舞台が甲斐東部製材から入荷した。

それをフェスティバルを後援してくれるJR貨物が4t車で引取りに来てくれた。この応援部隊に手伝ってもらって鋸引き体験用の竹・檜・杉の切り出し、積み込みをした。

- ・午後、会員の主だった20名ばかりがこの森の主要地点の状況把握のため、森をグルリー巡した。予備審査を受けるに際して森の状況を熟知していかなければならない。
- ・篠田FSC推進リーダーの話によると2年前の協力協約C地区の檜林は、1ヘクタールに200種以上の植物がカウントされること。どうしてそんなに種が多いか不思議なので時間を掛けて調べてみると報告した。

また、3年前に手掛けた協力協約B地区の南東向きの陽の当たる沢斜面は、山吹の黄色の絨毯になっていた。



- ここを観察道中頃から、整備林をシャニムニ下降する事にしたが、森はスッカリ生き返っている。
- ・協力協約D地区の整備班は、どうしても完成させたいと終了時間を大幅に越えて4時頃、森を降りて来た。それを隊長が労って「ムササビ亭」で一杯、奢っていた。

参加者が増え、活動が活発になるに従って計画通りにならない事や予期しない事が発生する。それが何時も、何んとはなしに解決されて行く。何んとはなしにと言う事は何だろうと言う話になった結論は、

何んとはなしにとは言うものの森林に明確な問題意識をもつ人々の集まりだから、こんな人達が解決しなければならない事が起こったら、その問題の周辺に集まって全員で知恵を出し合い、手を貸し合い、夫々に力を出し合って事を解決して行く。

こここの活動は、一般の組織にいう組織図がない。「森林破壊という負の遺産を残してはならない」と思う思想の下、活動に使命感をもって森と調和・共生したい、このまま森林を放置できないと言う想いが集まっている。夫々の活動のスキルを持つ者の回りに集まって森林整備班、生態系調査班、緑のダム学校、甲州古道復活班、養蜂班などが編成され、揚げ句の果てに「森の中の“ムササビ亭”」などが生まれている。言わば、理念・使命感を核にした円の組織だから、全てが丸く収まり、お互いが労りあって、譲りあって相手の身になる大人感覚が活動を楽しく意義あるものにしてくれている。

考えてもいなかった「ムササビ亭」の存在が大きくなりつつある。

3時半に全ての活動が終了後に開店する森の中の“ムササビ亭”は言わば、会社の終業後の“縄のれん”に似て、森の情報がタテ・ヨコ・ナナメと縦横無尽なのだ。インフォーマルに仲間同士が自由闊達にホンネを出し合い、一体感を強め、組織の目的に貢献しようと意欲を増進させている。

最初に設営した店が狭くなってしまった梅林に移転しようと言う事になった。

通りすがりのハイカーも飛び込み参加で盛り上がったりしている。

何せ、この店もボランティアだから仕入品原価販売にチョッピリ管理費を乗せただけだから激安なのだ。時々、差し入れもあってこれはタダ。



“ムササビ亭”を飾る花壇

#### \* 臨時の森林整備

3月31日、4月1日

協力協約の森林整備が未完ということで園田隊長等、7人が追い込み作業に入った。境界線の再確認と林床整理、グルリと見渡して見落とし未完の枝打ちはないか。

結果、アッタ。中原尾根筋に30~35本ばかり。仕上げを4月第三日曜日定例活動日に行う。

妥協しない森林整備班を誇らしく思う。

杉と檜の区別も知らない、針葉樹と広葉樹の特

#### \* 匠の市

報告：兼松まゆみ

4月2日~3日4日

桜には少々、早かったですが雨予報が外れて奇跡としか思えないような好天に恵まれ、何しろ皆さ大いに笑い、交流の輪がドンドン広がる嬉しさを実感した「匠の市」でした。今回よりご好意で大工さんなどプロもボランティア参加して頂き、製品のグレードもアップ。また、アマ・プロ双方のアイデアを融合させ、面白く魅力的な製品つくりも努力してみました。

結果、やはり多額の支援(勧上げ)を受ける事ができま

徴も分からぬ、森林の中に住む無数の生き物の存在も知らない…、知らないづくしで始めた俺等だが、県との協力協約による森林整備の検査に妥協を許さないというところまで来た。

した。スギ・ひのきの香りがプンプンするコーナーに皆さん、足を止め活動のパネルをじっと見て行かれる方が多く、観光に来る人々の意識の変化を感じます。川下で川上の森林を広報するという役目が果たせている事を実感しています。

●その他の報告、4月19日：「森林・林業再生システム研究会」

当会は余り、議論をしない。現場の活動の中にこそ解決策があると信じているし、これまでそのようにして来た。

しかし、県民集会來の県との交流を通じて県と当会活動の森林問題の捕らえ方に余りにもの乖離を感じ、話し合いの必要を感じるようになった。

県との協働事業が始まると同時に若い担当者の真面目さ優秀さや県の組織の素晴らしさに学ぶところも多く更に、対話の必要性を思うようになった。

そこで、上記をテーマに「一般県民+森林N P O +県の森林に関わりのある全ての部署」との意見交換の場が必要と県庁近くの万国橋会議センターで開催した。声を掛けた県の全部署の方々が参加して下さった事に開かれた県政の情報公開が全国3位だと言う新聞の報道は、本当だなど実感した。

研究会前半は、黒川教授が世界の林政の動きとわが国の林政の問題点、わ

が国の森林と建築物の歴史と、技術、新しい木材の加工技術と向かうべき方向を示唆された。後半の意見交換で、神奈川県の林業現場の状況確認と課題は、私有林の所有者への動機付けと材の流通が中心話題となつた。研究会の状況は上の新聞に見る通りだが、詳しい内容は6ページになるので関心のある方は申し出られたい。ここでの議論は、今後の活動・実践で具現化していく。

## ●活動報告、4月23日：甲州古道 in 上野原市

井田さんご案内で上野原駅から上野原裏山遊歩道を歩いた。パッチ状に散らばっている周辺の山桜の穏やかな美しさを改めて気付かされた。午後、新装なった上野原市役所の会議室を借りて活動の今後を相談した。県との協働事業に指定されている古道地図の作製、広報イベントを実施する事を確認した。

先月、井田さんに“地図つくり主任”をお願いしたのだが、驚いた事に「小仏峠～笹子峠」の自筆による地図を持参して下さった。それが、ただ事でない出来でつい、「よし、世界遺産を狙うぞ」と言ったところ、齊藤仲間が「それなら、吉野古道と同じように委員会をつくらなければな」とど言い出した。

神奈川新闇

2005年(平成17年)4月20日 水曜日

## 森林再生システム 治山治水と並行で

「緑のダム北相模」研究会

法人（NPO法人）「緑のダム北相模」（石村黄仁理事）の研究会が十九日、横浜市中区海岸通り国橋会議センターで開かれた。東京芸大の黒川哲郎教授が、森林・林業の再生システムについて講演、「建築材としてだけなく、環境保全の面から森林をとらえ直し、治山治水を並行して進めていくことが必要」などと述べた。

も、環境農政部を中心として、環境農政部を中心に研究会後、熱心に入戸を取るなどしていた。

石村理事は研究会後、「森林の荒廃は刻々と進んでいる。県は部局の縦割りを廃し、一体となつて県民に納得される水源保全策を提示してほしい」と話していた。

三十日には「緑のダメ北相模」などが中心となって、県産木材に親しみ、市民イベント「ネイチャーフェスティバル」をR新川崎駅近くの操車場跡地で開催する。

III \_\_\_\_\_

課題は、私有林の所有者への動機付けと材の流通を中心としたものである。

る通りだが、詳しい内容は6ページになるので関心のある人

活動・実践で実現化していく。

in 上野原市

始めに言葉ありき …甲州古道のお宝を探して世界遺産にするぞ。また、この大法螺吹きがと言われるぞ。

## 清き流れの相模川

「清き流れの相模川 桂の里の学び舎に」と小学校時代に校歌に歌われた往時の相模川について想いをはせてみましょう。

この相模川で少年ながら「ドブ釣り」や「カバリ釣り」で鮎釣りに挑戦しました。また、学校から帰るとカバンを放り出して、相模川で泳ぎ、水遊びに興じました。まさに相模川は、少年時代の遊び天国でした。

相模川は、神奈川県民の生活を支える母なる川です。富士五湖の一つ山中湖（忍野八海）を源流として、山梨県では桂川と言われ、神奈川県内に入り相模川と呼び、相模湾に流入する河口付近の平塚で馬入川と言われます。全長109キロ（全国第45位）流域面積1680km<sup>2</sup>（全国第40位）の一級河川です。

相模川はかつては鮎釣り愛釣者に取っては垂涎の漁場で、鮎釣りで生計を立てていた人達もいました。往時の与瀬は、鮎料理を旅人に提供する甲州道中（旧甲州街道）江戸より15番目の宿場でした。藏王権現と言われた与瀬神社に伝承された「ヤオさんキヨさん」も相模川で鮎漁をしていた時、上流から流れて来た御神体をすくい上げたと言い伝えられています。

現在は昭和22年に多目的ダムとして完成誕生した日本最初の人造湖相模湖へ流入しています。相模湖は重量式コンクリートダムで総発電力は54,000kw、ダム本体の高さ58.4m、長さ196m、面積63,260,000m<sup>2</sup>、東京ドームの250倍、水量は63,200,000m<sup>3</sup>で芦ノ湖の1/2の大きさです。

往時、相模川には高瀬舟や筏による水運が盛んに行われ、津久井地方の産物や木材が厚木や平塚に運ばれました。

また、河川の往来にも関所や口留番所があり取り締まりを行っていました。相模川の奥畠下に改所、荒川に番所が有りました。弁天島対岸の奥畠下の川通改所は、甲州や相模川上流から売買荷物や筏、或いは上乗りする人の往来を改めました。

（文責 中里）

- 5月 7日(第一土曜日) 小原本陣の森  
相模湖駅前9時15分集合、車分乗で行く。車の人、駅前に集合して乗せてくれ。
- 5月15日(第三土曜日) 若柳嵐山の森  
協力協約の整備が終った。  
楽しく美しい森つくりを目指す。
- 5月28日(第四土曜日) 甲州古道

モットー／休まず・無理せず、楽しく、ボチボチと…  
そして、沢山のご意見と参加下さい。

名 称／さがみ湖・森つくりの会

N P O法人緑のダム北相模／森林部会  
事務局／〒154-0023 世田谷区若林3-35-9  
T & F / 03-3411-1636  
発行者／石村黄仁

### ○協 動

団体 神奈川県(津久井森林課・土地水資源対策課)

／N P O緑のダム北相模の森林保全活動は、左記の団体との協働事業として実施しています。

・H P : h t t p : // w w w 0 0 8 . u p p . n e t . j p / k i t a s a g a m i

\*支援団体 WWF ジャパン、WWF 日興インベスターズ基金、損保ジャパン環境財団、イオン財团  
日本財団、神奈川社会チャレンジ基金